



図書館報 ぶらっつ★篠崎

045号

特集「なにこれ!?珍本12選」

- P2 そのメロディに魅せられて♪
「♪朗読CDの世界♪」
- P4 人物ブックマーク
「トマス・エドワード・ロレンス」
- P4 スタッフのセレクション!
「医学探偵の歴史事件簿」

イベント
レポート

トップアスリートと読書

篠崎図書館では秋の読書週間特別展示として10月27日(火)から11月23日(月)の間、「トップアスリートと読書」を開催しました。五輪出場を果たしたトップアスリートに心に残る本は何かというアンケートを実施。総勢18名の選手の皆様にご協力いただきました。そして、選手のプロフィールと直筆の本の紹介コメントを合わせ額縁に入れ、推薦本とともに並べて展示しました。

私たちが選手を目にするときの多くは試合で戦っている姿だと思います。今回の展示では、選手たちがどのような本を読んでいるのか、推薦本に込められた

思い、本に関する様々なエピソードなど、選手の別の一面も知ることができたのではないのでしょうか。

日本の代表として世界の舞台上で戦ったトップアスリート。そんな選手たちの心の強さに影響を与えたくさんの本たち。改めて読書の持つパワーを感じました。アンケートに答えて下さった選手の皆様、本当にありがとうございました。

これからも篠崎図書館では、本を手にとっていただく機会を多く提供し、より図書館を活用していただけるよう、様々なイベントを開催していきますので、是非ご参加くださいませ。



江戸川まいにんぐ 発掘 第45回 「タワーホール船堀 展望塔」

江戸川区内のイベントやスポットを、スタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

東京近郊に住んでいる人ほど、スカイツリーや東京タワーへ行ったことがないという話を聞きます。そういえば私も区のシンボルであるタワーホール船堀の展望塔に上ったことがないなどこの度思い立ち、夜景を見て参りました。七階で専用のエレベーターに乗り換えて、いざ展望階へ。地上115mからは都内全域はもちろん、晴れた日には富士山・筑波山・海ほたるを臨める大パノラマです。スカイツリーと東京タワーを1枚の写真におさめることも魅力です。(三脚使用など他の方の迷惑になる写真撮影は禁止ですのでご注意ください。)利用していた多くの方が「近くにこんな所があったとは」「無料でこれだけ楽しめるなんて」と口にしてるのが印象的でした。

タワーホール船堀の正式名称は“江戸川区総合区民ホール”と言い、平成11(1999)年3月16日に開館しました。大小様々なホールや会議室、江戸川区唯一の映画館“船堀シネパル”などを備えた複合的な文化施設です。アクセスも新宿線船堀駅すぐと便利です。気軽に遊びに行ってみませんか。



参考資料 『江戸川区政50年史』 K1-21
江戸川区区政情報室区史編纂室編 篠崎ほか所蔵 展望塔からの夜景

タワーホール船堀外観

イベント情報

「ブラインドサッカーを知ろう ～現役選手に聞くブラサカの魅力～」

講師：葭原 滋男氏

12月13日(日) 14時開演(13時30分開場)

場所：篠崎文化プラザ 講義室

定員：50名(事前申込み制)

図書館カウンターまたはお電話にて受付中。

ブラインドサッカーとは、アイマスクをつけてボールの音とまわりの声を聞いて行う5人制サッカーです。見えない状態とは思えないスピードと迫力、ドリブル、シュートなどの華麗なプレー、ガイド(ゴールの後ろにいる案内役)と選手のコンビネーションなど、見どころがいっぱいのパラリンピック競技です。この競技の魅力について元日本代表選手の葭原滋男氏にお話し頂きます。

☆年末年始のお知らせ☆

12月31日(木)～1月12日(火)

システム更新のため休館いたします。本・雑誌のご返却はブックポストをご利用下さい。

人物ブックマーク

人物ブックマークとは、著名人とその著作および関連本を紹介するコーナーです。



第三十三葉 トマス・エドワード・ロレンス

「アラビアのロレンス」といえば映画でもおなじみの人物だろう。第一次大戦中、イギリス人将校でありながら、オスマン帝国の支配下にあったアラブの独立を助けた英雄として語られることが多い。

だがその英雄像はあくまで西欧諸国からみたものであって、実際の歴史の中で違う立場から(特にアラブ諸国から)みたロレンスはまた違ってくるのである。

1888年にイギリスのウェールズで生まれたロレンスはオックスフォード大学を卒業後、大英博物館の中東遺跡発掘調査に参加。第一次大戦が勃発したのちはイギリス陸軍の将校として、敵国ドイツの同盟国だったオスマン帝国を揺さぶるため、オスマン帝国の支配下にあったアラブの有力者に接触する。イギリスはロレンスを通じ、オスマン帝国を崩壊させたのちはそこにアラブ人の国を建

てるという約束で、アラブの独立運動を支援したのである。

しかしこの約束は第一次大戦後守られることはなかった。アラブ人にはひとかけらの土地も手に入らなかったのである。というもイギリスはこの約束とは別に、ユダヤ人に対してこの地にイスラエルの建国を約束し、さらに同盟国のフランスとは中東地域の分割統治をたくらんでいた。世にいうイギリスの三枚舌外交である。これらは現在に続くパレスチナ紛争の直接の引き金となった。アラブ人はイギリスに、またロレンスに「裏切られた」という思いを強くしたことだろう。

終戦後、ロレンスは何度も偽名を使い軍に入隊を繰り返す。そして1935年にオートバイの事故により46歳の若さでこの世を去った。

関連書

『アラビアのロレンスを求めて』	牟田口 義郎著	中央公論新社	289.3円	篠崎ほか所蔵
『知恵の七柱 完全版』1~5	T. E. ロレンス著	平凡社	V227ロ1~5	中央ほか所蔵
『<DVD>アラビアのロレンス 完全版』	デビッド・リー監督	ソニー・ピクチャーズエンタテインメント	V1ア01317	篠崎ほか所蔵

スタッフのセレクション

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

『医学探偵の歴史事件簿』 小長谷 正明著 岩波書店 490.2円 篠崎ほか所蔵

一人の病やその治療が歴史のターニングポイントになる場合があることを、本書は教えてくれます。

例えばスターリンは、医師団が自分への陰謀を企てていると思い込み、次々と医師を逮捕。その結果、卒中を起こした際に診察する主治医がおらず、満足な治療を受けられずに亡くなったそうです。日本では、終戦時に厚木基地で終戦反対派による反乱事件が起きましたが、首謀者がマラリアで倒れ反乱は終わりました。歴史に「たら・れば」はナンセンスですが、もしスターリンが治療を受け生き延びていたら、彼が計画していたというユダヤ人弾圧は起

こっていたかもしれません。また、厚木基地で反乱が激化していれば、進駐軍と戦闘状態になり、日本は混乱状態に陥り、復興は遅れたかもしれないと著者は推理します。

本書は、神経内科医である著者が、古今東西の歴史上の人物や事件について、医学の目を通して推察し、平易な文章で語っています。キューリー夫人やナイチンゲールといった医療に貢献した人物の逸話や、欧州の王族の家系と病の歴史を紹介したり、倭健命の死因を文献資料から解明しようと試みたりと、医学を切り口にしたバラエティに富んだエッセーとして楽しめるお得な一冊です。

編集後記

もう、2015年も終わりですね。結局、腹筋が割れなかったので、2016年こそ割れるよう神様にお願いします。(風雲ふわふわ丸) / 2015年のお正月は念願の凧揚げをやることができたので、2016年はコマをまわしたいと思っています。(かき氷職人) / ついこの前ひつじの年賀状を書いた気がしますが……時の流れがはやすぎてついていけない今日この頃。(しろやぎ) / 寒いのは苦手です。でも、しっかり防寒した上で散歩するのは気持ちいいです。(まゆげ)

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
住所：〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内

TEL: 03-3670-9102

[しのぎ文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
<http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>